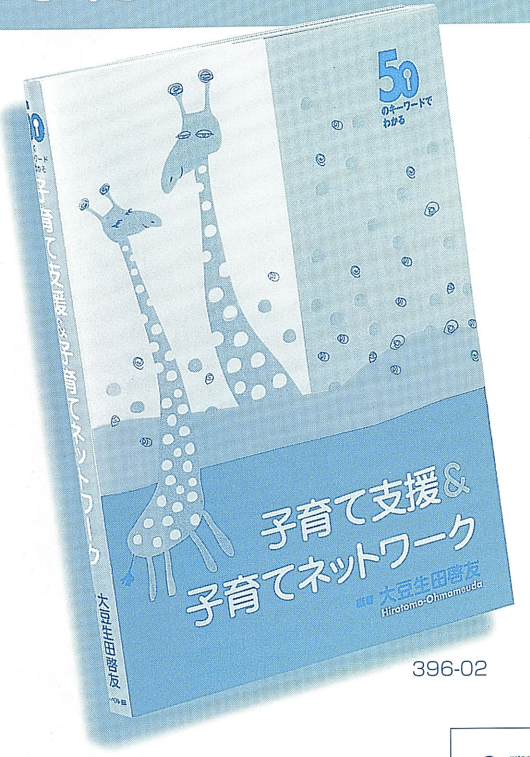
新刊

50のキーワードでわかる

子育て支援&子育てネットワーク

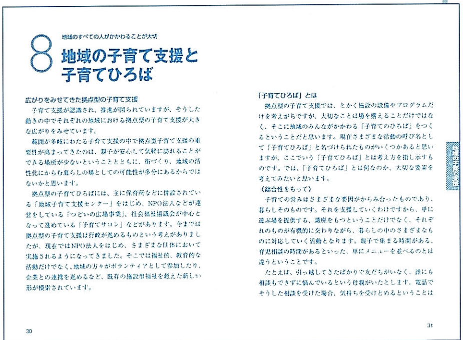
大豆生田啓友　編著



396-02

都市化、核家族化が進んだ今、
子育ての悩みや不安を抱えて
戸惑う親たちが増えています。
このような親世代を
どのようにして支援して
いったらよいのでしょうか。
本書は、子育て支援や
子育てネットワークについて
基本的な50のキーワードをあげ、
わかりやすく解説しています。
子育てや保育の現場での
支援のありかたを考える１冊です。

19×13cm　176頁
定価1,260円（税込）



8　地域のすべての人がかかわることが大切

地域の子育て支援と子育てひろば

広がりをみせてきた拠点型の子育て支援

子育て支援が認識され、推進が図られていますが、そうした動きの中でそれぞれの地域における拠点型の子育て支援が大きな広がりをみせています。

範囲が多岐にわたる子育て支援の中で拠点型子育て支援の重要性が高まってきたのは、親子が安心して気軽に訪れることができる場所が少ないということとともに、街づくり、地域の活性化にからむ暮らしの場としての可能性が多分にあるからではないかと思います。

拠点型の子育てひろばには、主に保育所などに併設されている「地域子育て支援センター」をはじめ、NPO法人などが運営をしている「つどいの広場事業」、社会福祉協議会が中心となって進めている「子育てサロン」などがあります。今までは拠点型の子育て支援は行政が進めるものという考えがありましたが、現在ではNPO法人をはじめ、さまざまな団体において実施されるようになってきました。そこでは福祉的、教育的な活動だけでなく、地域の方々がボランティアとして参加したり、企業との連携を進めるなど、既存の施設型福祉を超えた新しい形が模索されています。

「子育てひろば」とは

拠点型の子育て支援では、とかく施設の設備やプログラムだけを考えがちですが、大切なことは場を構えることだけではなく、そこに地域のみんながかかわる「子育てのひろば」をつくるということだと思います。現在さまざまな活動の呼び名として「子育てひろば」と名づけられたものがいくつかあると思いますが、ここでいう「子育てひろば」とは考え方を指し示すものです。では、「子育てひろば」とは何なのか、大切な要素を考えてみたいと思います。

〈総合性をもって〉

子育ての営みはさまざまな要因がからみ合ったものであり、暮らしそのものです。それを支援していくわけですから、単に遊ぶ場を提供する、講座をもつということだけでなく、それぞれのものが有機的に交わりながら、暮らしの中のさまざまなものに対応していく活動となります。親子で集まる時間がある、育児相談の時間があるといった、単にメニューを並べるのとは違うということです。

たとえば、引っ越してきたばかりで友だちがいなく、誰にも相談もできずに悩んでいるという母親がいたとします。電話でそうした相談を受けた場合、気持ちを受けとめるということは

30

31

【キーワードから】

- 子育ての孤立化／いまどきの親世代
- 子育てひろばの環境／子育て相談
- 子育て支援者の専門性／子育てネットワーク
- 子育て情報発信
- ピアカウンセリングとファシリテーター
- 虐待防止のための支援／保育所の子育て支援
- 幼稚園の子育て支援
- ファミリーサポートセンター　　ほか

キンダーブックの
フレーベル館
くわしくはフレーベル館代理店・特約店・支社・支店・営業所または本社営業総括部（03）5395-6608にお問い合わせください。